

2026年3月期 第3四半期 連結決算の概要

2026年2月12日

株式会社今仙電機製作所

東証スタンダード・名証プレミア 証券コード：7266

I. 2026年3月期 第3四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II. 通期業績予想の修正について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

III. 資本コストや株価を意識した 経営の進捗について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

I. 2026年3月期 第3四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II. 通期業績予想の修正について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

III. 資本コストや株価を意識した 経営の進捗について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

2026年3月期 第3四半期 実績

▶ 営業利益、経常利益は前年同期より大きく上回る結果となりました

売上高 **63,260**百万円 営業利益 **1,273**百万円  経常利益 **1,386**百万円  純利益 **1,608**百万円

2026年3月期 業績予想の修正

▶ 売上高は減収が見込まれるものの各利益は上振れの見通し

売上高 **87,200**百万円 営業利益 **1,700**百万円  経常利益 **1,700**百万円  純利益 **1,850**百万円 

期末配当

▶ 配当方針に基づき期末配当の増配を決定（2026年2月6日開示）

	期初予想		8/27増配開示		2/6増配開示
年間配当	20.00円	+2円	22.00円	+5円	27.00円

(単位：百万円)

	24/12期 実績	25/12期 実績	前期比 増減額	前期比 増減率
売上高	69,700	63,260	▲6,439	▲9.3%
営業利益	▲463	1,273	1,737	-
経常利益	▲431	1,386	1,817	-
当期純利益	1,658	1,608	▲49 [※]	▲3.0%

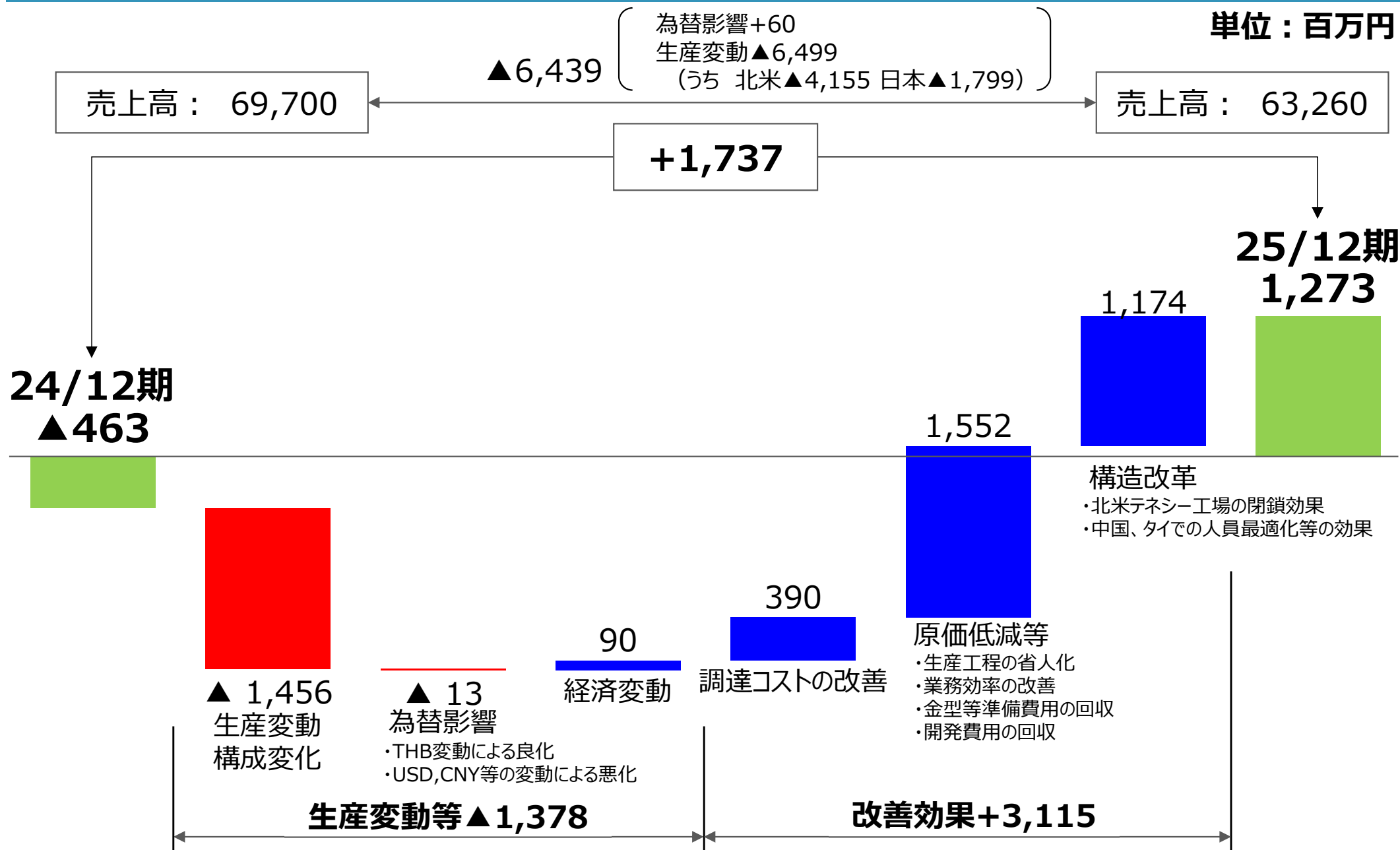
※24/12期においては投資有価証券売却益3,598百万円を計上しており、25/12期ではテネシー工場売却益841百万円および投資有価証券売却益164百万円を計上しております

為替		24/12期 実績	25/12期 開示予想	25/12期 実績
	USD	151.46円	141.67円	148.71円
	CNY	20.99円	19.50円	20.77円
	THB	4.24円	4.30円	4.57円

当期より在外子会社の決算期統一により24/12期では24年1月-9月、25/12期では25年4月-12月の実績を計上しております

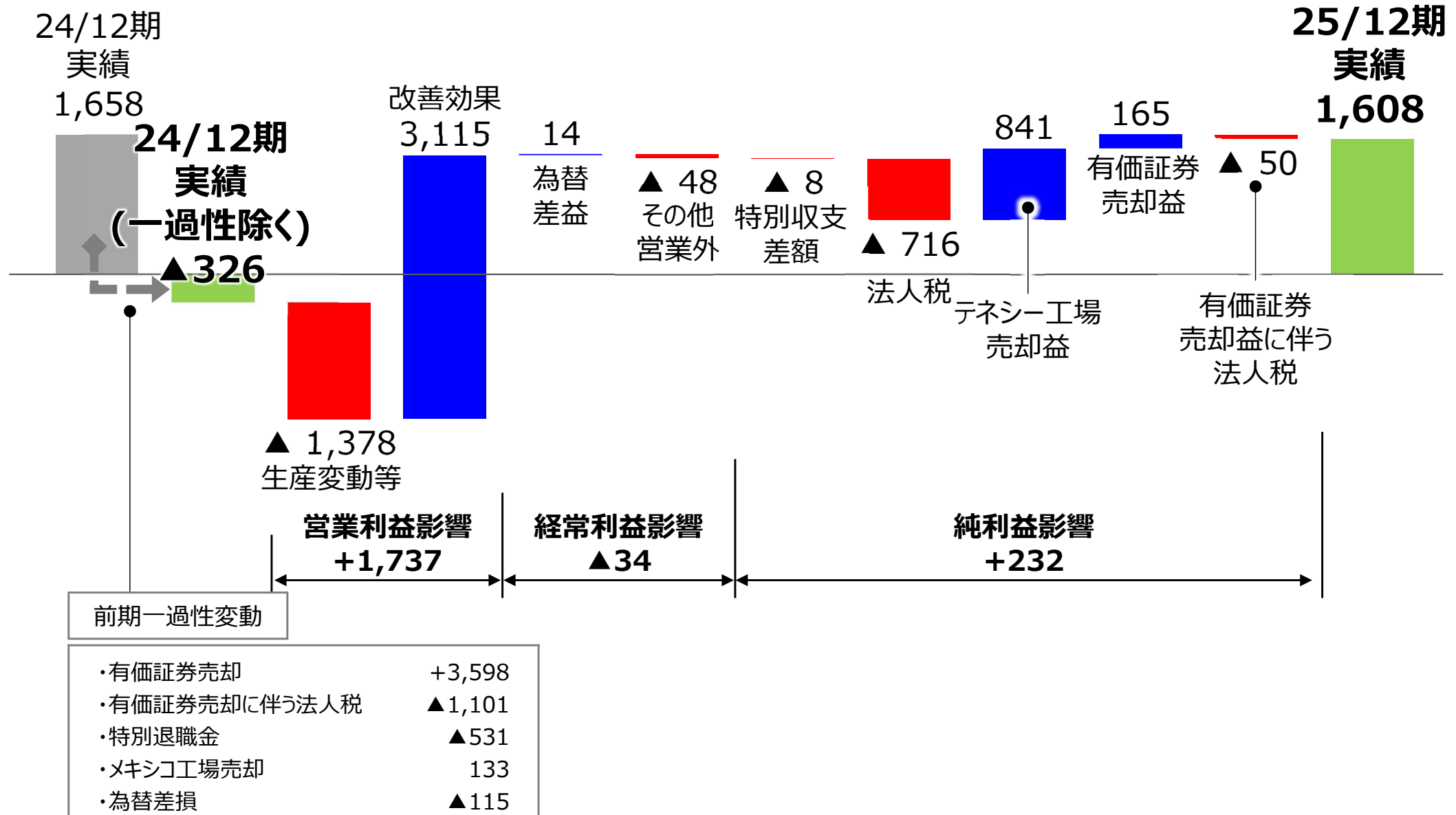
開示予想のレートは上期での予想レートと下期での予想レートの平均値としております

単位：百万円



減収影響を受けたものの、構造改革の効果と原価低減活動により増益

単位：百万円

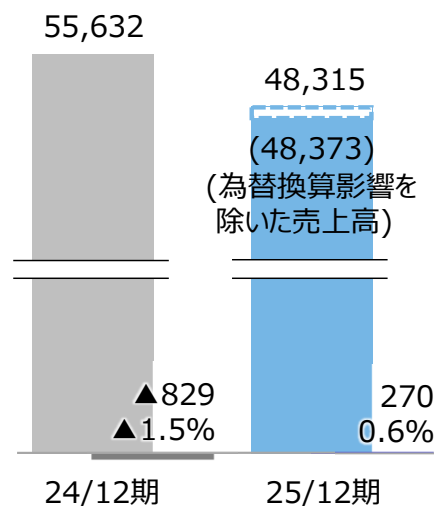


一過性要因を除く前期実績に対し、営業利益良化により純利益の実力値は改善

【前年同期比】

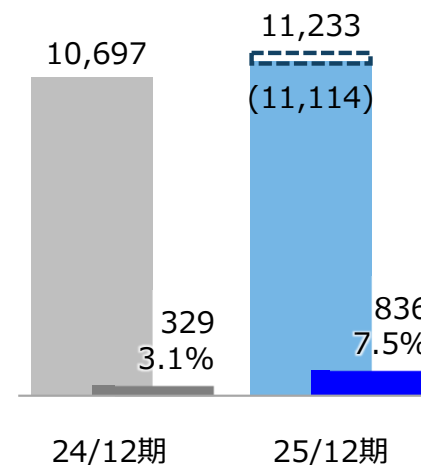
(単位：百万円)

シート・電装事業



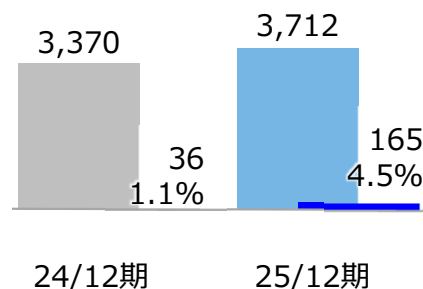
売上高	▲7,317 (▲13.2%)
半導体問題の影響や中国およびタイでの減産、生産品目の入れ替わりに伴うモデル末期機種が生産終了により減収となりました	
営業利益	+1,100 (黒字化)
減収影響を受けたものの、合理化投資による省人化および調達コストの削減に加え、 構造改革の効果により黒字化 となりました	
為替換算影響額	売上収益 ▲58
	営業利益 +3

電子事業



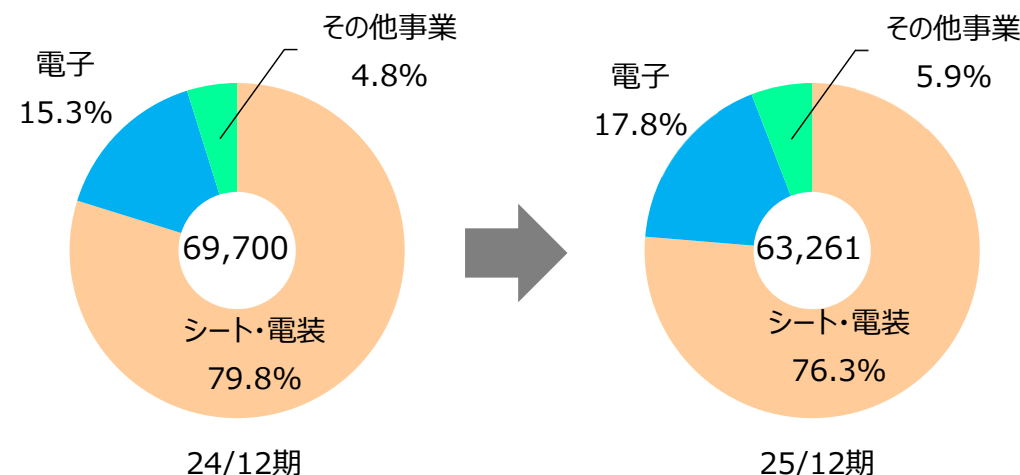
売上高	+535 (+5.0%)
新規立上り車種の納入開始に加え開発費の回収を含む技術売上の増加により増収となりました	
営業利益	+507 (+154.2%)
増収影響に加え、過去の開発費の回収により増益となりました	
為替換算影響額	売上収益 +118
	営業利益 +20

その他事業



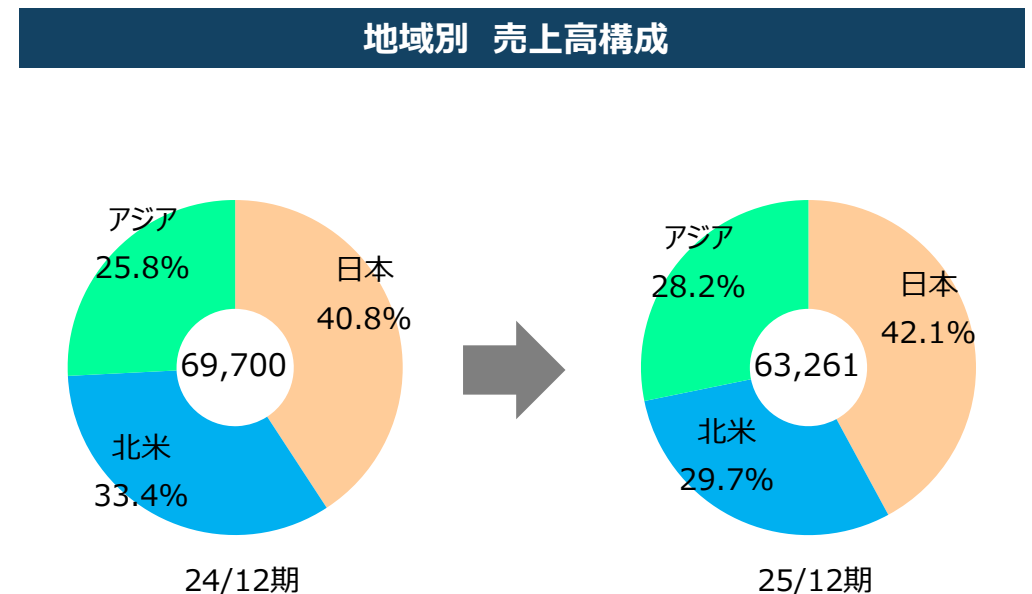
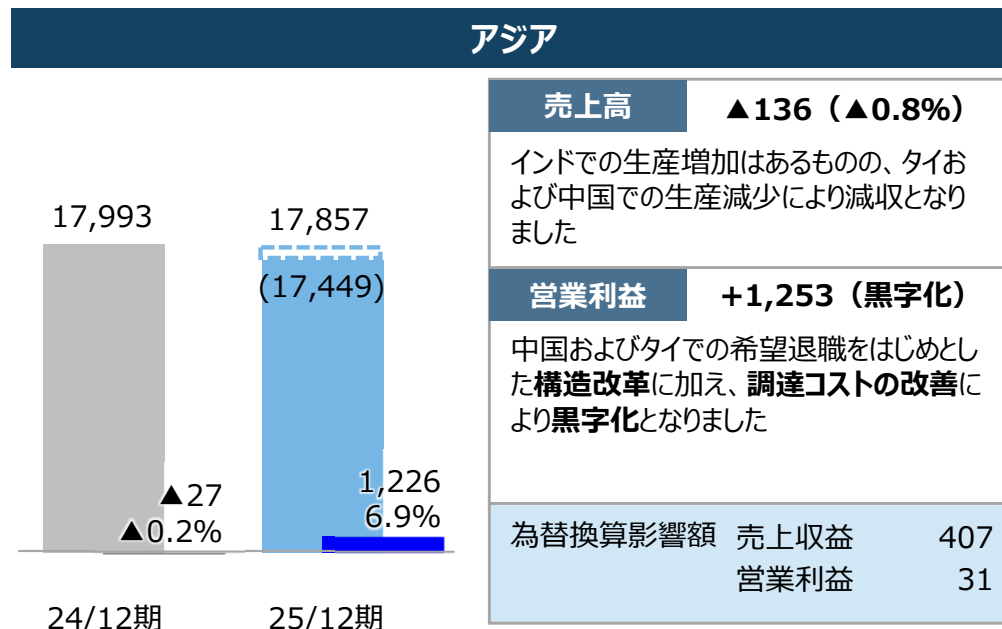
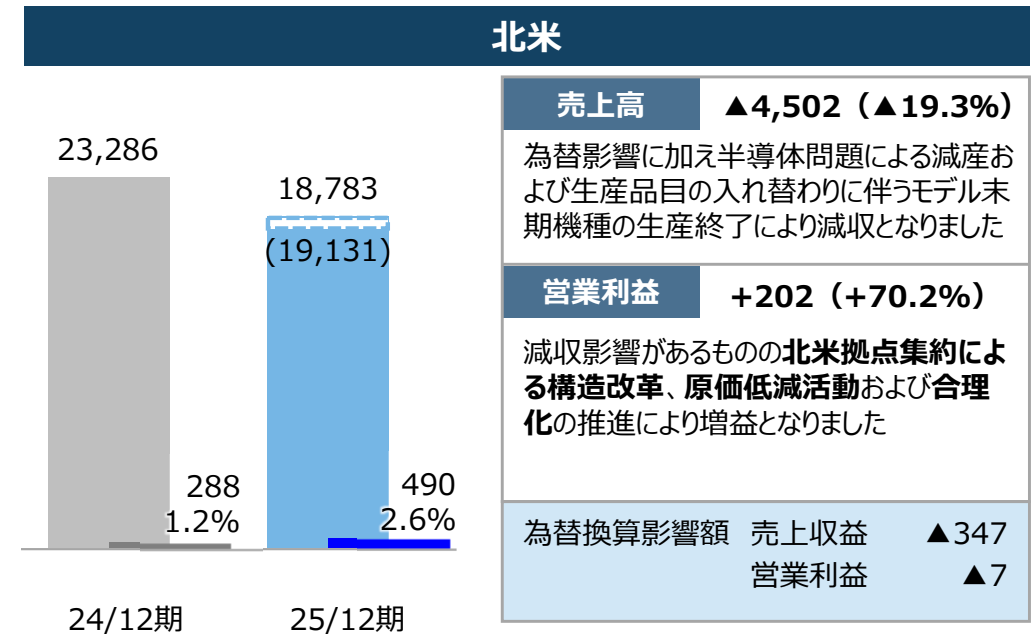
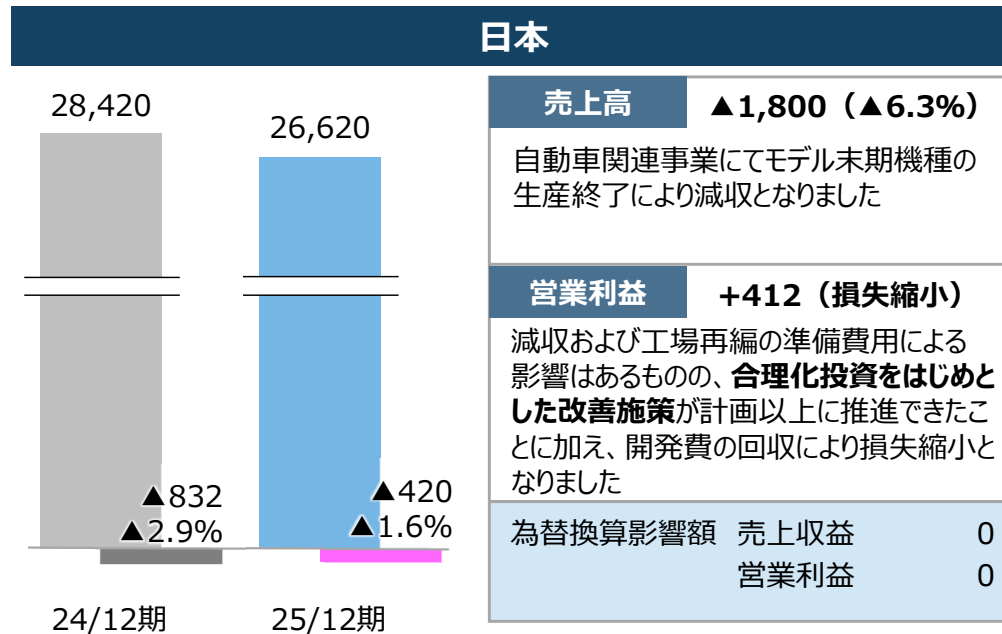
売上高	+341 (+10.1%)
ワイヤーハーネス事業の受注が増加したことにより増収となりました	
営業利益	+129 (+351.1%)
新製品開発による費用負担はあるものの原価低減活動に加え増収影響により増益となりました	
為替換算影響額	売上収益 0
	営業利益 0

事業別 売上高構成



【前年同期比】

(単位：百万円)



(単位：百万円)

設備投資

	24/12期	25/12期	増減額
国内	1,294	1,379	85
北米	525	1,179	654
アジア	961	354	▲ 607
合計	2,781	2,912	131

※25年1月-3月にかけて、北米で599百万円、アジアで325百万円の投資を実施しております

減価償却費

	24/12期	25/12期	増減額
国内	1,041	1,167	126
北米	299	451	152
アジア	857	768	▲ 89
合計	2,199	2,386	187

＜主な投資内容＞

・国内（成長投資、体質強化）

電子事業における開発環境整備、インバータ製品立ち上げ準備、新規車種向け生産能力拡大投資、国内再編と合理化に伴う投資

・北米（成長投資、合理化）

新規車種立ち上げへの対応、生産能力拡大/工場拡張に伴う投資

・アジア（成長投資）

インドでの新規車種立ち上げ準備および生産能力拡大投資が1月-3月に前倒しとなり、当四半期は減少

・国内

前期におけるシート生産の高効率化ライン導入および電子製品の多品種自動生産ライン（マルチライン）導入により増加

・北米

前期における北米拠点再編に伴う投資により増加

・アジア

インドにおける増加があるものの、タイ、中国における償却費減少

受注獲得状況

■ 第3四半期までの受注件数

客先への積極的な営業活動により、**受注を獲得**

	車種	製品数	備考
シート製品	4車種	9製品	現行モデルに続き次期モデル獲得：6製品 新規車種：3製品
	3車種	8製品	現行モデルに続き次期モデル獲得：4製品 新規車種：4製品

当社主力製品と その特徴



- ✓ レール断面は世界最小レベル 軽量化、レイアウト自由度アップに貢献

統合ECU等



- ✓ 複数の車載機能制御を行う電子部品機能統合により省スペース化、低コスト化に貢献

シート製品、電子製品いずれも受注獲得状況は計画通り

スマートファクトリー実現に向けた取り組み

私たちは“モノと情報が一致した自律する工場”づくりを通じて、持続可能な成長を実現していきます

ロボットAGV(無人搬送機)の開発

部品のピッキング～自律走行による生産ラインへの供給を行うロボット
ラインサイドの狭小エリアをスムーズに移動可能

グループ技術のシナジー活用

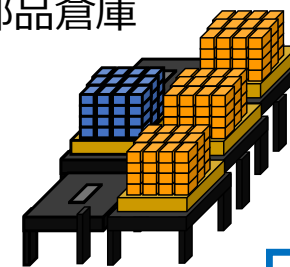


- ✓ カメラ画像認識技術
- ✓ 小型モビリティ技術
- ✓ 電装配線技術

※実機イメージ

部品自動搬送システムの構築

部品倉庫

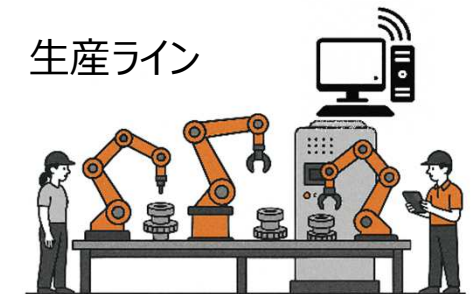


ロボットAGVによる
構内物流の自動化

部品供給指示

生産ライン

ロボット
AGV



2026年度中でのシステム構築に向けて開発推進中

グループの技術力を最大活用し、新しいものづくり環境の構築を目指します

福祉機器関連事業

高い走破性能を持つ電動モビリティ

これまでの車輪による移動方式に加え、キャタピラーを組み合わせた強力な走破性能を持つ電動モビリティを「**国際福祉機器展（H.C.R.2025）**」（2025.10.8～10.10）に出展

通常モード



タイヤ+キャタピラーモード



キャタピラーモード



キャタピラーとタイヤを組み合わせた3つの走行モードによって
悪路走行や階段昇降、溝の乗り越えなど高い走破性を実現

ハンデキャップを持った方々の行動範囲を飛躍的に拡大

テレビ愛知「開発現場へ行こう！」出演

テレビ愛知 毎週火曜日22時58分から放送中の「開発現場へ行こう！」で
当社が紹介されました（12月2日 O.A.）

■ 撮影の様子

番組では当社の歴史やシート機構開発のこだわり、強みなどを説明



放送終了後よりテレビ愛知公式YouTubeチャンネルにて配信中 <https://youtu.be/PU3hntcsU7k>

テレビ放送やYouTube配信を通じて当社のPRに繋がりました

I . 2026年3月期 第3四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II . 通期業績予想の修正について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

III . 資本コストや株価を意識した 経営の進捗について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

通期業績予想を上方修正

(単位：百万円)

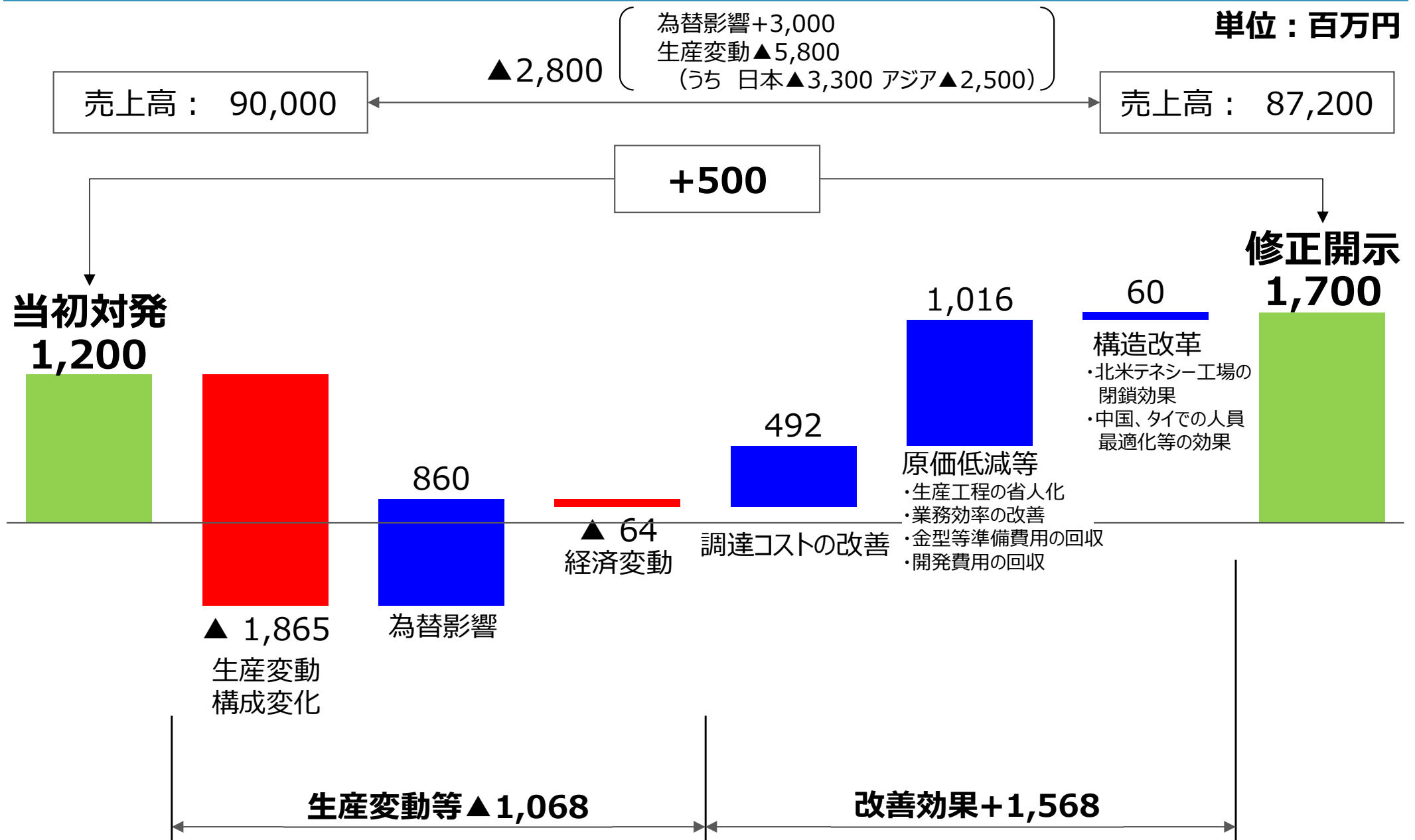
	25/3期 実績	26/3期 期初予想	26/3期 修正予想	期初予想比 増減額	同 増減率
売上高	94,341	90,000	87,200	▲2,800	▲3.1%
営業利益	393	1,200	1,700	500	41.7%
経常利益	511	1,200	1,700	500	41.7%
当期純利益	2,084	1,350	1,850	500	37.0%

為替	25/3期			26/3期 期初予想			26/3期 修正予想		
	USD	151.69円		140.00円			147.78円		
	CNY	21.04円		19.00円			20.70円		
	THB	4.30円		4.20円			4.55円		

当期より在外子会社の決算期統一により25/3期では25年1-12月、26/3期では25年4月-26年3月としております

売上高は減収となるものの、利益は上振れ

単位：百万円



減収影響を受けるものの、当初の計画を上回る原価低減により上方修正

I . 2026年3月期 第3四半期 連結決算概要

取締役執行役員 井上 達嗣

II . 通期業績予想の修正について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

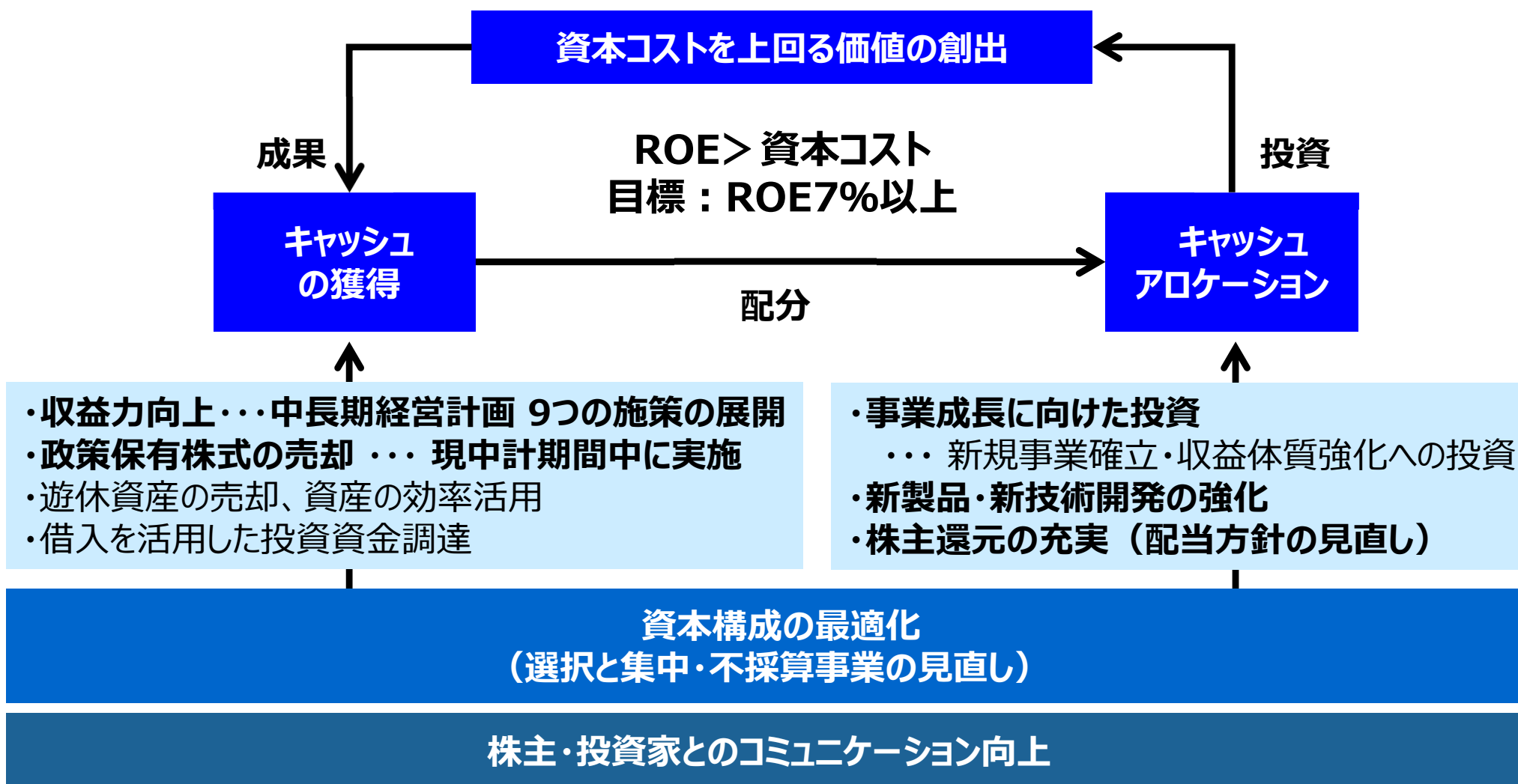
III . 資本コストや株価を意識した 経営の進捗について

代表取締役社長執行役員 長谷川 健一

■ 基本施策： 資本コスト・株価を意識したキャッシュの使用

キャッシュ創出の安定化、資本効率の追求、株主への還元を重視しながら、将来成長に資するキャッシュの使い方をしていきます

資本効率を高めるサイクルを回す



■ 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた主な取り組み

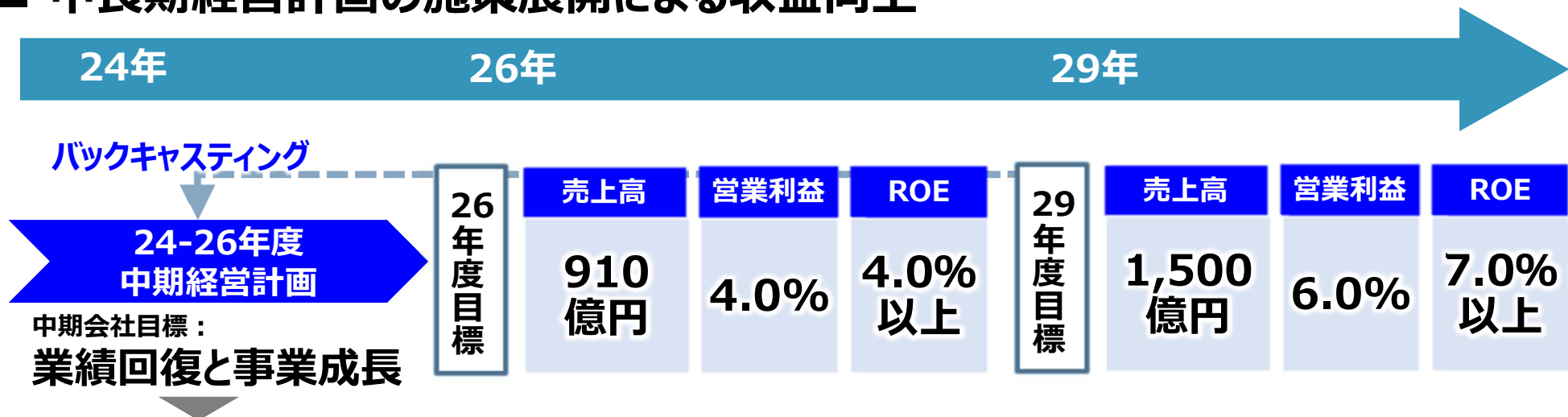
※2024年4月～2025年12月末まで

2025年11月14日開示内容

対応方針	主な取り組み
①収益力の向上	中期経営計画－「9つの重点施策」の策定と展開
②政策保有株式の縮減	9銘柄 計55億円の売却を実施
③遊休資産の売却 資産の有効活用	メキシコ工場、米国テネシー工場売却 計23億円
④設備投資・開発投資の強化	グローバル各拠点で成長投資(新製品立ち上げ、生産能力拡大、国内工場再編)、合理化投資など総額58億円の設備投資を実施予定
⑤株主還元水準の向上	2024年 配当方針を見直し(11月) 5円増配を決定(12月) 2025年 自己株式の取得、消却の実施を決定(2月) 2円増配を決定 / 株主優待制度を導入(8月)
⑥IR活動の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・決算説明会を四半期毎に開催 (年2回→年4回) ・名証IRエキスポ出展 ・個人投資家向け説明会を年2回開催予定 (26/3期から実施)

対応方針に沿って取り組みを推進中

■ 中長期経営計画の施策展開による収益向上



9つの重点施策		
経営スピード	収益	①意思決定のスピードアップと権限移譲の促進
攻め		②営業機能の強化
守り		③メガサプライヤーを超える競争力の強化
		④北米・中国再編による収益強化
		⑤調達構造の再構築による材料費率の改善
	資本効率	⑥稼ぐ力の再構築
シナジー	収益	⑦ROEと資本コストを意識した資本政策
事業基盤		⑧グループシナジーによる将来製品開発
		⑨ESG経営の推進

各施策は計画どおり進捗しております

各施策は計画
どおり進捗して
おります

■「9つの重点施策」の取り組みのハイライト



北米－北米拠点の体質強化

- ▶ テネシー工場からオハイオ工場への生産移管 ⇒ テネシー工場売却 **完了**
- ▶ 現調化・合理化・自動化への積極的な投資



中国－中国市場の需要動向に合わせた体制整備

- ▶ 希望退職募集による人員最適化
- ▶ 現地OEM向けの拡販推進・・・テイ・エス テックと連携/広州モーターショー2024出展
- ▶ 生産体制の最適化・・・広州工場から人件費が安価な武漢工場へ生産設備を移管
- ▶ 材料現調化・・・コスト競争力の強化とサプライチェーンリスクの低減



インド－成長市場における生産拡大と体制整備

- ▶ テイ・エス テックとの協働拡販によりマルチ・スズキ様向け受注獲得
- ▶ さらなる生産拡大に向けた投資
- ▶ 現地OEM向けの拡販推進・・・当社電子製品技術のPR活動を展開中



国内－国内拠点の最適化

- ▶ 工場再編・・・電装製品生産の集約（可児工場/春里工場閉鎖）
電子事業拡大に向けた最適化
- ▶ 稼ぐ力の再構築に向けた積極的な合理化投資

事業成長に向けた積極投資と拡販活動を推進中

北米拠点の体質強化

■ 積極的な合理化投資

既存車種生産ライン自動化（2026年7月稼働）

自動化による省人化/出来高向上

生産性 **4.8倍** 向上 ※従来ライン比

新規車種用生産ライン導入

自動化によるさらなる省人化

生産性 **9.6倍** 向上 ※従来ライン比



■ 能力増強を見据えた投資の推進

生産能力拡大および地産地消の推進に向けて
工場建屋の拡張工事中 ※2026年4月完成予定

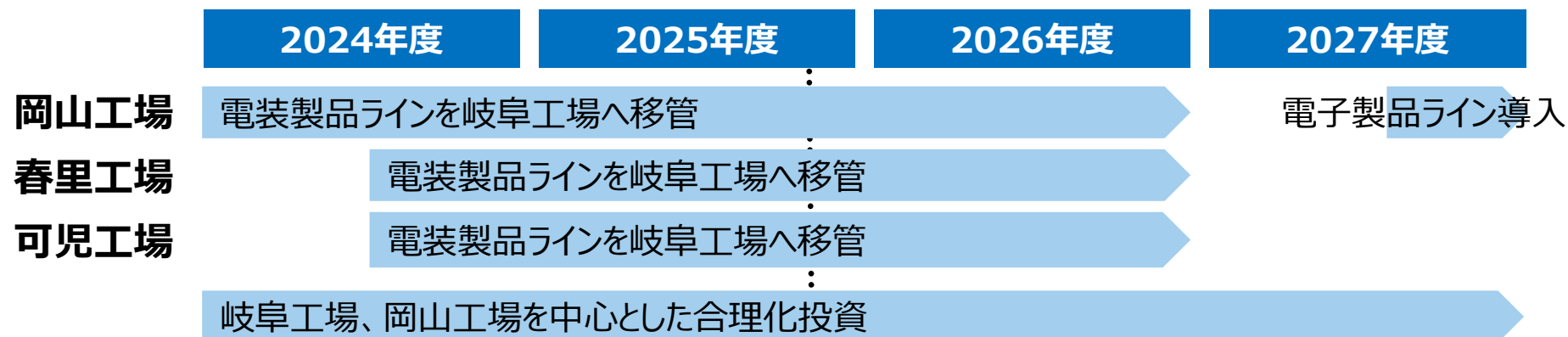
2026年夏の稼働開始に向けて計画通り推進中



今後も現調化、合理化、自動化、今後の受注増への対応に向け投資を推進

国内拠点の最適化

■ 国内工場再編のスケジュール



工場再編、合理化投資は計画どおり推進中

合理化の一例

岡山工場 – 自動部品セットロボット導入

ロボットにより加工機への
部品セット・取り出しを自動化
(1名の省人化)

➡ 類似作業への水平展開も
検討していく



合理化投資/工場再編は計画どおり推進、2026年より本格的な効果刈り取りを見込む

次世代インバータ製品への対応

■インバータ製品の立ち上げ

今後、電子事業における主力製品のひとつとなるインバータ製品立ち上げに向けて開発、設備投資ともに**順調に推進中**



導入予定

インバータ製品の量産開始に向けた設備投資を増強中

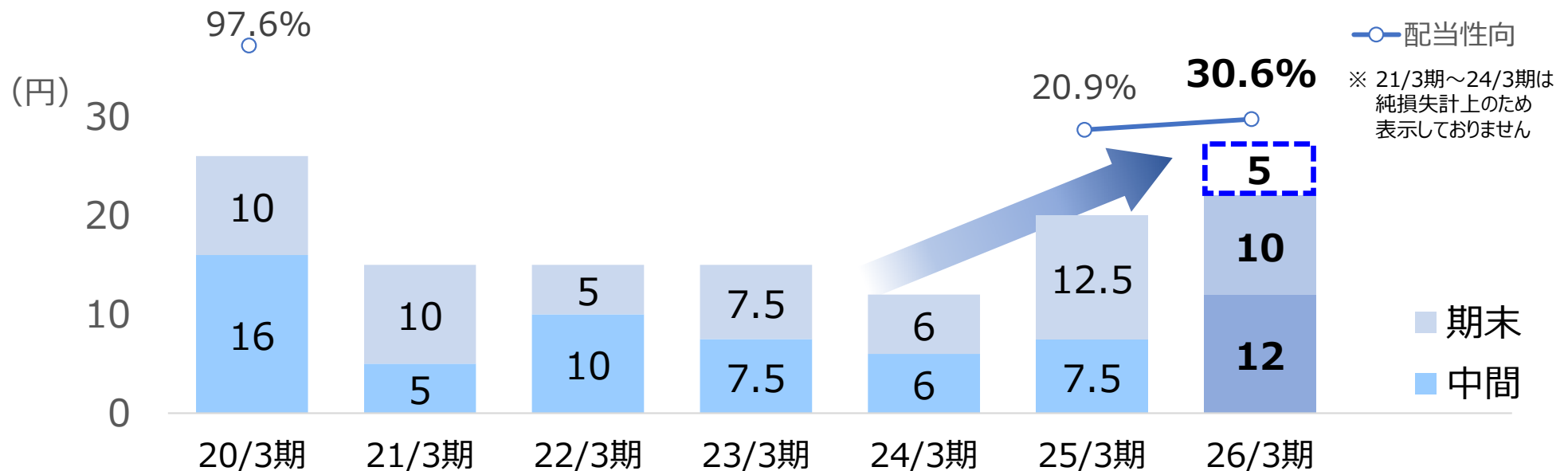
■ 配当予想の修正（増配）

※2026年2月6日に開示しております

<配当方針>

- ・ 業績回復に応じた**安定的増配**
- ・ 配当性向 30%を目標とし、**年次の経営環境や業績により決定**

配当方針並びに通期の業績等を勘案し、1株当たり**5円の増配**、**期末配当15円（年間配当金27円）**を決定しました



今後も株主還元水準の向上に向けた施策を積極的に検討していく

■ IR活動の充実

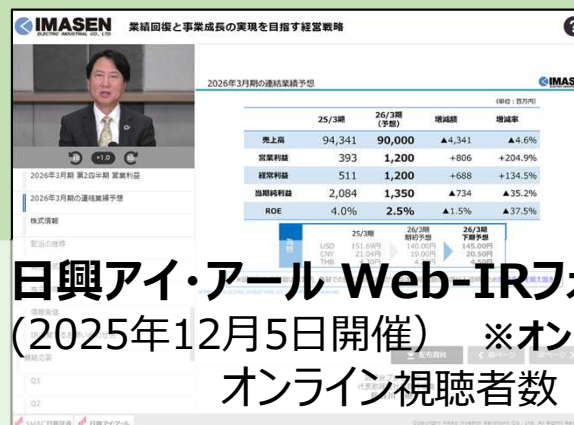
投資家の皆様とのコミュニケーションを図るべく、IR活動を強化

・個人投資家向け会社説明会

名証IRセミナー in 東京 **5月**
(2025年5月22日開催)

来場者数：約300名

アンケート回答：約200名



12月

日興アイ・アール Web-IRフォーラム2025
(2025年12月5日開催) ※オンライン開催+オンデマンド配信
オンライン視聴者数：約390名

・個人投資家向け企業展 **9月**

名証IR EXPO 2025 (2025年9月5日・6日開催)

当社ブースへ500名を超える個人投資家にご来訪いただき、多くの投資家の方との対話の実現やアンケート等でのご意見をいただきました

・決算説明会の実施 (半期毎の開催から四半期毎の開催に変更)

機関投資家との対話を図るべく、昨年に続き、四半期毎に会場とオンラインを活用したハイブリッド形式にて決算説明会を実施

投資家の皆様からのご意見を今後のIR活動に反映してまいります

※日程、場所については変更となる場合がございます

2 / 6 26年3月期 第3四半期 決算発表

本日 2/12 20年3月期 第3回中期 決算説明会
@東京 日本証券アナリスト協会 会議室

5 / 初旬 26年3月期 決算発表

5 /中旬 26年3月期 決算説明会
@東京 日本証券アナリスト協会 会議室

6 / 初旬 個人投資家向け会社説明会（名証IRセミナーin東京）

6 / 下旬 第89期定時株主総会

移動空間の未来を創る

Challenge by New Imasen

- 本資料の内容に関する一切の権利は株式会社今仙電機製作所に帰属しています。
複写及び無断転載はご遠慮下さい。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づいた推測、見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。
- 実際の業績は今後様々な要因によって、予測と異なる結果となる可能性があります。

○IRに関するお問い合わせ先

株式会社今仙電機製作所
経営企画部 企画課 IR担当

TEL 0568-67-1517

URL : <https://www.imasen.co.jp/contact/>